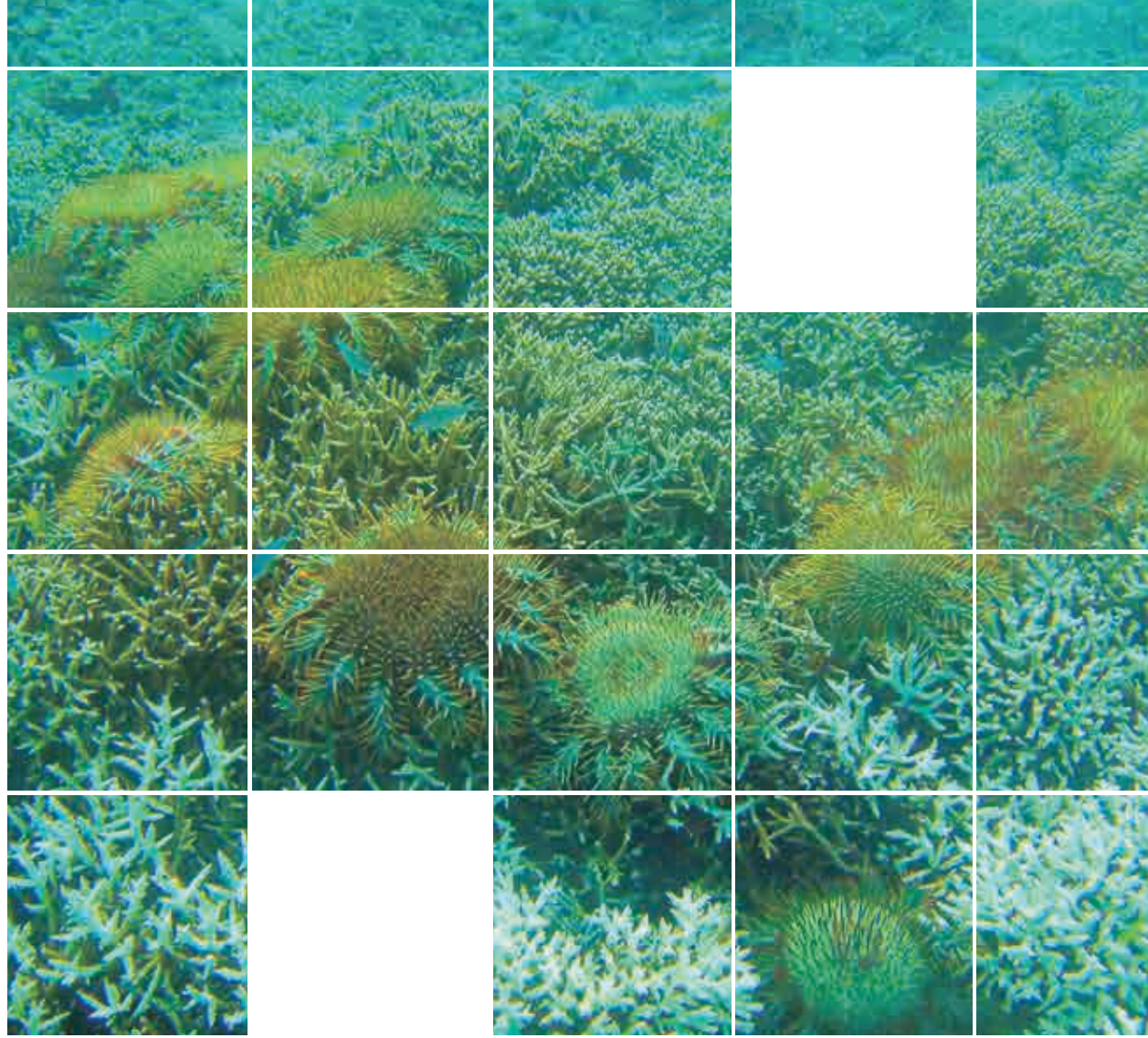


オニヒトデ大量発生 のメカニズムとその対策

オニヒトデ総合対策事業シンポジウム



のメカニズムとその対策

～これまでに分かったことから私たちに何ができるか考える～

2017年11月5日(日)

14:00 - 17:30 (開場13:30~)

沖縄県立博物館・美術館 [博物館講座室]

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 定員100名

事前申し込み

定員に余裕がある場合、当日参加も可能ですが、人数把握のため、事前申し込みにご協力ください。

参加費
無料



↑
ホームページはコチラ

- ホームページからお申し込みの方
▶ <https://www.okinawa-sango-info.com/sym/cots2017.html>
- メールまたはFaxでお申込みの方
「オニヒトデ総合対策事業シンポジウム参加希望」、
① 代表者のお名前 ② 参加人数 ③ 連絡先(電話 or メール)をご記入の上、
▶ メール: cots@okikanka.info にお送り下さい。
▶ Fax : 098-875-1943 にお送り下さい。

目的

シンポジウムでは、はじめに各講演者からオニヒトデ大量発生メカニズムについて、オニヒトデ総合対策事業の研究からわかったことを説明し、その後のパネルディスカッションで来場者からの質問への回答をおりまぜてこれから何をしたらよいかを議論します。

プログラム

- 13:30 開場
- 14:00 開演
- 14:10 講演 1~4
- 15:10 休憩
- 15:20 講演 5~8
- 16:20 休憩
- 16:35 講演 9 パネルディスカッション
- 17:30 終演

緊急
参加



©MABUYER PROJECT

お問合せ先 TEL: 098-875-5208 沖縄県環境科学センター (担当: 赤嶺・當間)

頂いた個人情報につきましては、受付整理及び連絡用としてのみ使用し、また、個人情報保護法の規定に従って適正に管理いたします。

プログラム・講演者の詳細はウラへ

オニヒトデ大量発生メカニズムとその対策

～これまでに分かったことから私たちに何ができるか考える～

プログラム・講演概要

13:30 開場

14:00 開演

14:10 講演 1 オニヒトデはなぜ大量発生するか？

岡地 賢(コーラルクエスト)

1960年代から沖縄をふくむ世界各地で大量発生を繰り返してきたオニヒトデ。これまでの研究により、現在もっとも有力とされている大量発生仮説を説明します。

講演 2 オニヒトデの大量発生はどうひろがってきたか？

安田 仁奈(宮崎大学)

大量発生したオニヒトデ集団が産み出す幼生は、時として別の場所へ海流で運ばれ、さらなる大量発生を引き起こします。このような現象が沖縄周辺だけでなく、九州や本州でも起きるようになった経緯と理由を解説します。

講演 3 オニヒトデの幼生はどこに向かうのか？

中村 雅子(東海大学)

恩納村で産まれたオニヒトデの幼生は海流によってどこへ運ばれてゆくのか。GPSを搭載したパイを恩納村のサンゴ礁から流し、その航跡から幼生のゆくえを考察します。

講演 4 オニヒトデの幼生はどこに着くか？

熊谷 直喜(国立環境研究所)

過去十数年分の海流データを利用し、沖縄県各地や周辺諸国で産まれたオニヒトデがどの海域へどのくらいの確率で流されてゆくかをシミュレーションした結果を解説します。

15:10 休憩

15:20 講演 5 沖縄の海の水質

金城 孝一(沖縄県衛生環境研究所)

オニヒトデの大量発生が繰り返し起きている沖縄本島西海岸の海水には、幼生が成長し、生き残るために必要な餌が十分に含まれているのか、最近4年間の水質モニタリング結果から考察します。

講演 6 オニヒトデがサンゴを食べるまで

岡地 賢(コーラルクエスト)

海底に着いたばかりのオニヒトデ(稚ヒトデ)は、最初はサンゴもとよばれる海藻を食べ、6～7ヶ月目頃から徐々にサンゴを食べ始めます。もし、サンゴがなかったら稚ヒトデはどのような影響を受けるか、北谷町と恩納村とで成長率を比較して考察します。

講演 7 稚ヒトデトラップ

北村 誠(沖縄県環境科学センター)

オニヒトデの大量発生を予測する方法のひとつとして、直径数センチの稚ヒトデを捕まえるトラップ(罟)を開発しています。稚ヒトデを誘い込むための匂い物質の探索と、稚ヒトデが逃げられないトラップの構造について解説します。

講演 8 陸からのオニヒトデ大量発生対策の可能性

梶原 健次(宮古島市)

オニヒトデの大量発生には、陸から海に流出した栄養塩(窒素やリンなど)が大きく関与しているとみられています。そのため栄養塩の流出抑制が大量発生を抑制につながると期待できます。宮古島市の地下水保全の経験から、栄養塩流出対策について考えます

16:20 休憩

16:35 講演 9 パネルディスカッション

『オニヒトデの大量発生は防げるか?』

岡地 賢(コーラルクエスト) 鹿熊 信一郎(沖縄県) 梶原 健次(宮古島市)

金城 孝一(沖縄県衛生環境研究所) 金城 賢(沖縄県)

酒井 一彦(琉球大学) 安田 仁奈(宮崎大学)

17:30 終演

講演者紹介 (講演順)

岡地 賢 博士

1987年に琉球大学理学部海洋学科を卒業後、オーストラリアのジェームズクック大学に留学、オーストラリア海洋科学研究所でのオニヒトデの研究成果により1996年に博士号を取得。パラオ国際サンゴ礁センター主任研究員などを経て、現在は有限会社コーラルクエストの代表取締役としておもに沖縄県内のオニヒトデやサンゴの調査研究に従事している。

安田 仁奈 博士

2003年に早稲田大学を卒業、東京工業大学でのオニヒトデの個体群構造と幼生分散を対象とした研究成果により2008年に博士号を取得。宮崎大学テニユアトラック推進機構准教授。どのような環境下で何がオニヒトデの大量発生のカギとなるのか研究を進めつつ、水域生態系及び環境の保全に向け、海洋無脊椎動物の種分化や幼生分散の解明、身近な水域における侵略的外来生物に関する研究などを行っている。

中村 雅子 博士

2010年に琉球大学大学院理工学研究科において、サンゴの幼生生態に関する研究成果により博士号を取得。沖縄科学技術大学院大学の研究員を5年勤め、現在は東海大学海洋学部水産学科講師。学生とともに、西表島から伊豆までの黒潮流域のサンゴ群集やオニヒトデ個体群を対象に調査研究を展開している。

熊谷 直喜 博士

海辺の研究所を拠点として海に潜る地道な研究生活に始まり、温帯サンゴの1種に共生する甲殻類の研究によって2004年に筑波大学で博士号を取得。現在は(国研)国立環境研究所に在籍し、データ解析やシミュレーション技術を活かして、おもにサンゴ礁や藻場の行く末を予測する研究に従事している。

金城 孝一 博士

2003年に沖縄県に採用され沖縄県衛生環境研究所研究員として勤務。その後2012年に東京工業大学大学院において、サンゴ礁生態系保全のための統合型管理に関する研究により博士号を取得。現在、沖縄県衛生環境研究所において、赤土汚染およびサンゴ礁海域の水質管理に関する調査研究に従事している。

北村 誠 博士

1994年に大阪産業大学大学院工学研究科を修了後、社)近畿建設協会水質研究所に入社し水質分析業務に就く。その後2006年に名古屋大学大学院理学研究科において、サンゴ幼生に作用する着生誘引物質や忌避物質の研究により博士号を取得。現在、沖縄県環境科学センターにおいてオニヒトデ幼生や稚ヒトデ、グリーンアノールに作用するケミカルシグナル研究に従事している。

梶原 健次 博士

1997年に東海大学大学院において、サンゴの成長と石灰化に関する研究により博士号を取得。同年より平良市栽培漁業センター(現宮古島市海業センター)勤務、2005～2017年には宮古島市にて地下水保全を担当した。現在は、宮古島市水産課にて水産振興に関する業務に携わりつつ、サンゴ礁モニタリングなども行っている。